

令和4年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立馬込第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・教師が問題設定、仮説、実験・観察、考察、結論、問題設定という学習過程を学年を越えて共有することで、児童の学力の定着を図った。児童は考えの根拠を明らかにし、適切な表現で仮説や考察を書くことができるようになってきている。

(2) 課題

- ・身近な動植物や自然現象に目を向け、興味・関心を高めるために児童が理解しやすい実験計画を立てる。
- ・理科の用語は、引き続き確実に習得させながら、観察・実験器具の使い方を正確に身に付けさせる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第4学年	・達成率は、7割程度である。 ・どの観点においても目標値を達成している。		
第5学年	・達成率は、7割程度である。 ・知識・技能の達成率は、目標値をやや下回った。	(第4学年時) ・達成率は8割程度である。 ・どの観点においても目標値を達成している。	
第6学年	・達成率は、7割程度である。 ・知識・技能、思考・判断・表現の達成率は、目標値をやや下回った。	(第5学年時) ・達成率は7割程度である。 ・どの観点においても目標値を達成している。	(第4学年時) ・達成率は7割程度である。 ・技能と知識・理解の達成率が目標値をやや下回った。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値を上回っている。 ・「電気の通り道」に関する設問について目標値をやや下回っている設問があった。	・目標値を上回っている。 ・「太陽と地面の性質」に関する設問について目標値を下回っている設問があった。	・目標値を上回っている。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・5、6年生共に目標値を下回っている。生命・地球分野で、目標値を下回る設問が複数あった。	・5年生は、目標値を上回っており、6年生は、やや下回った。特に6年生の「ものの溶け方」の設問について目標値を下回っている設問があった。	・5年生、6年生共に目標値を上回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・引き続き、毎回の授業のはじめに、既習事項の確認を行い、知識の定着を図る。 ・単元の最後に学習内容をまとめる時間を設けたり、タブレットやプリントを活用して問題演習を行ったりして、知識を整理させる。	・学習問題作りの際に、既習事項や提示した事象を比較しながら思考させ、違いを意識して仮説を立てられるようにする。	・単元の導入で、生活経験を想起させたり、既習事項を振り返ったりできるような活動を取り入れることで、学習に対する児童の興味・関心を引き付けられるようにする。

（2）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・単元の最後には、単元の内容をタブレットやノートを使ってまとめたり、問題演習を行ったりして、知識を整理させる。 ・動植物を育てたり、観察したりする環境を整え、自身の経験から知識の定着につなげられるようにする。	・実験結果の見通しを立てさせ、結果とその意味を関連付けて考えさせる。 ・結果の検討及び、共有を行い、結果を正確に捉え、考察させる。	・単元の導入で、既習事項や、児童の生活経験と結び付けて問題作りを行い、興味・関心をもって学習に取り組める計画を立てることで、理科を学ぶ意欲につなげられるようにする。